

いのちを支える 貴重な資源としての豊川とよがわ

東三河と豊川

豊橋市・豊川市・新城市および設楽町にまたがる豊川は、昭和43年の豊川用水の全面通水によって東三河のほぼ全域が流域圏となりました。

この恩恵によって豊川の水が届かない地域であった渥美半島は、全国でも有数の農業地帯となりました。

また、自動車産業を始めとする、さまざまな業種の工業生産も、豊川の水によって支えられています。

このように私たちが住む東三河は、豊川の恵みとともに発展してきました。

今も続く水不足

しかし、東三河は水不足で悩んできた地域でもあります。

豊川は流域面積が小さく、川の長さも短いため、雨が降っても短時間で海に流れてしまいます。そのため、降った雨を安定的に確保するのが難しくなっています。

幸いなことに、昨年は大きな渇水はありませんでしたが、一昨年の夏には宇連ダムの貯水がほぼ底をつき（貯水率0.8%）、計55日間におよぶ節水を余儀なくされるなど、しばしば深刻な水不足に悩まされてきました。

森を守る努力

安定的に水を確保し、渇水を防ぐには、水を蓄える森林が欠かせません。そのため豊橋市は、(公財)豊川水源基金が行う水源林保全の取り組みを支援しています。

そのひとつの「水源林保全流域協働事業」は水道料金の一部(1tにつき1円相当額)を原資とするもので、間伐に加え、広葉樹の植樹による人の手のかけりにくい森林づくり、水源林の保全を行う人材の育成などに取り組んでいます。



渇水時の宇連ダム



間伐のようす

水の恵みに感謝して

水は生命を育み、私たちの生活を豊かにしてくれる貴重な財産です。

豊川の恵みを将来にわたって受けられるよう、この限りある資源を大切に使いましよう。

■近年における豊川の節水(取水制限)の状況

実施年	実施日数
平成13年	120日
平成14年	56日
平成15年	73日
平成18年	38日
平成25年	55日
平成26年	10日

※実施年において、複数発生している場合は累計日数を示す
実施日数には節水解除日を含む

問い合わせ

政策企画課(☎51・3153)